愛媛県県立学校振興計画「第２回地域説明会（松山・伊予・上浮穴地区）」での主な御意見等について

令和４年 10 月１日～15 日において、「愛媛県県立学校振興計画」策定の目的や計画（案）の内容などについて説明する第２回地域説明会を８地区で開催しました。

本地区における主な御意見等については、以下のとおりです。

項目	主な御意見等	県教育委員会の考え方
砥部分校	砥部分校については、施設などを含め立派な環境が整っているということを、もっと理解してほしい。規模が小さくても生徒を育てていくという気持ちが大切。計画案はよく練られているが、もう一度考え直してほしい。	これからの子どもたちにとってよりよい教育を実現するという観点で具体的な御意見をいただき、それが、生徒の学びや教育環境の充実という観点から、プラスとなる提言や現案と同等以上と思われる内容の修正案であると判断できるものについては、柔軟に取り入れていきたいと考えています。
	多様化の時代に３学級以上という適正規模については、納得いかない。自由な学びの選択肢を増やすのが生徒ファーストではないか。	高校は、卒業後直ちに成人として社会に出る生徒に対し、社会の様々な困難を乗り越え、自分の人生を切り拓いていくための能力・資質を養う場であります。そのため、高校生活の間にできるだけ大勢の仲間たちと交流し、いろいろな経験を積むことができるよう、適正規模については３学級以上が適当であると、検討委員会において判断されたものであり、全国的には「４学級以上」を適正規模と定める県が大勢を占める状況にある中で、本県は県内事情を考慮し「３学級以上」としたところです。 もちろん小規模校にもメリットはありますが、多様な科目の開設はできず、人的ネットワークの構築や部活動・学校行事等の展開も限られたものとなるなど、多くの課題があり、より充実した学校運営の実現や、生徒の学びの選択肢を確保するためには、一定規模の確保は必要と考えています。
	砥部町長が地域協議会でどのような発言をしたのか、詳しい説明をしていただきたい。	地域協議会については、率直な意見交換や意思決定の中立性を確保するため、当初から協議内容は非公開としておりますので、誰がどのような発言をしたかについての説明は、控えさせていただきます。 なお、地域協議会では様々な意見がありましたが、最終的には協議会の総意として、現在１学級しかない砥部分校の再編はやむを得ないとの結論に至っております。
	松山南高校の本校と分校が連携し、台湾の高校との交流や、アートとサイエンスを融合した教育を実施している。これまでの取組を評価してほしい。	本校と連携した取組については、県教委も承知し高く評価していますが、伊予高校と統合となっても、松山南高校との連携を継続することは可能であるほか、他校と連携した新たな取組を実施することも可能になると考えています。また、伊予高校と統合することにより、芸術や情報など、デザインと親和性の高い

		分野間での連携が、校内で日常的に可能になり、アートやサイエンスと融合した教育がより発展できるものと考えております。
	今のままだと廃校のおそれがあると説明しているが、何を根拠にしているのか。	少子化等の影響による志願者の減少で、平成25年度からは２→１学級となり、また、直近３年間のうち、２年は定員割れとなっています。このようなすう勢に加えて、今後も少子化が確実に進むことを踏まえると、将来的に募集停止となる可能性があると考えています。
	伊予高校の設備計画を教えてほしい。質も補償できるのか。	伊予高校に同等の設備を設置し、教育環境の質を保つこととしています。ガス窯・電気窯については新設又は移設し、デザイン科に必要な特別教棟についても新設する予定です。
松山商業	松山商業高校定時制商業科をなぜ松山南高校へ統合するのか。	松山商業高校定時制商業科については、志願者数が非常に少ない状況が続いており単独設置が難しいことから、近接する松山南高校に移管し、同校商業科として存続させることとしています。
計画全般	このような地域説明会を行い、地域の意見を聴いてから、再編計画を策定すべきではないか。また、追加して、学校ごとの説明会を開催すべきではないか。	本計画案は、関係市町の首長・教育長を始め、地域住民の代表者、小・中・高校等校長で構成する地域協議会を設置し、２年にわたり検討・協議を重ねた集大成として策定したものであり、その過程で地域要望も織り込んだ内容となっております。 県では、県民の皆さんに県立学校の将来像を問うためには、まずは県が最も適当と考えるプランをお示しする責任があり、それをベースに意見をお聴きするべきと考えたものであり、公表後は、意見聴取のための地域説明会やパブリック・コメントなどを実施しているところです。 なお、学校ごとの説明会については、こちらが出向く形での大掛かりな説明会を追加で開催する予定はありませんが、来庁又は質問等を送付いただければ、個別にしっかり対応させていただきます。
	少数ではあるかもしれないが、学校に行きづらくなった生徒に対して、小規模校は必要ではないかと考えている。具体的に、どこを想定しているのか。	今回の計画案では、昼間二部定時制と通信制を併置した、これまでにない形の学校となる「愛媛風早高校（仮称）」の設置を計画しています。同校は、学校に行きづらくなった生徒に学び直しの機会を提供することはもとより、下記のような多様な背景を持つ生徒等にも対応することとしています。 ○働きながら学びたい生徒 ○起立性調節障害など朝起きられない症状を抱えながら学校に通いたい生徒 ○大学受験に向けて受験勉強に特化した生活を送りたい生徒 ○学校の進度にとらわれず、自分のペースで勉強したい生徒